

会 議 録

1 会議名

令和6年度 第8回中郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）報告（公開）

- ・4区合同研修会を振り返って
- ・町内会長連絡会議での互助による輸送への転換の報告について
- ・中学生のレゴブロックを使ったワークショップ参観の報告について

（2）協議（公開）

自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について

- ・「(仮称) さとまるバスの運行による検証事業」について
- ・「子どものい〜場所開設事業」について

視察研修について

協議会だより編集委員について

（3）その他（公開）

なし

3 開催日時

令和6年11月25日（月） 午後6時から午後7時10分まで

4 開催場所

中郷コミュニティプラザ ホール

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：竹内靖彦（会長）、岡田龍一、尾崎公子、鹿島一彦（オンライン出席）、桐山和樹、高橋達也、竹内昭彦、松岡聖江、村越勝彦、陸川昇一、欠席2名
- ・事務局：中郷区総合事務所 高波所長、加藤次長、丸山市民生活・福祉グループ長（教育・文化グループ長併任）、早川地域振興班長、津島地域振興班主事、恩田総務班長、渡部税・市民生活班長、桐山福祉班長、野坂教育・文化班長

8 発言の内容（要旨）

【早川班長】

会議の開会を宣言。

上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【竹内（靖）会長】

会議録確認を岡田委員と尾崎委員に依頼。

報告事項に移る。4区合同研修会を振り返り、出席した委員に意見を求める。私の感想から述べる。事例発表を最初に行い、他区と比較する必要もないと思うが、中郷区の活動が活発的で良かったと思った。中郷区まちづくり振興会が中心となって作成した動画を区の紹介動画として流し、地域の活動に地域協議会の意見が反映できていることも表せて良かったと思っている。意見交換会で他区の委員と話している中で、全世帯アンケートが斬新的であり、他区ではできないと意見をいただいた。行政と協働で進んでいる地域であるからできることだと実感できた。

【陸川（昇）委員】

竹内（靖）会長の意見の通り、中郷の良さをアピールできて良かった。農業法人として活動している区の事例は、藤沢での取組の参考にしたいと思った。意見交換会でも、中郷区がどうやって取り組んでいるのかを聞かれた。若い人にも声をかけ、自分たちがやる姿も見せながら活動しているとアドバイスした。

【村越委員】

中郷区の活発さを感じた。紹介動画では、どの地区も豊富な雪と山、田畑が美しいというアピールであり、どこの地区でも良いアイデアで地域資源を活用すれば展開が可能だと思った。板倉区は10人の委員が改選になり、どうやって人を集めたのか参考にしたいと思った。4区以外の地域協議会委員とも交流してみたい。

【竹内（昭）委員】

他区も同じように高齢化、人口減少の悩みを持っており、同じように糸口をつかみたいと考えているようであった。板倉区地域協議会の10人改選は大変そうだ

と感じつつ、新しい意見が入ってきて良いとも思った。第 2 部では、地域おこし協力隊の事例を聞くことができ、良かった。

【高橋委員】

地域おこし協力隊の事例発表が素晴らしかった。盛んさを感じた。ふるさと応援室の研修では、中郷区から返礼品の申請者が出てきてもいいのではないかと思った。ふるさと納税の取組もより活発になっていたら良いと思う。意見交換会は久しぶりに会えた方と話ができ良かった。

【尾崎委員】

初めて参加し、他 3 区の取組も興味深かった。ふるさと納税についても、入口となる知識を身に着けることができ、興味を惹かれた。意見交換会で、隣になった清里区の地域協議会委員と地域協議会の活動以外でも個人的に一緒に活動できたら良いという話になり、参加して良かったと思った。

【桐山委員】

中郷区の紹介動画では、各団体が協力して活動していることがアピールできた。今後も 4 区の先駆者という気持ちで盛り上げていきたい。意見交換会では、同じような悩みを抱えているところが多く、中郷区のやり方を聞かれた。ふるさと納税について、上越市にはまだ参入の余地があると思った。

【竹内（靖）会長】

地域おこし協力隊の事例発表は活発さがあり、中郷区の地域おこし協力隊も各団体が連携して支えていきたい。次年度の 4 区合同研修会は中郷区で行う。次年度になったら早めに準備をしていきたい。

次に町内会長連絡会議での互助による輸送への転換の報告について、事務局に説明を求める。

【早川班長】

資料 No1 に基づき説明。町内会長からの質問は特段なかった。

民生委員児童委員協議会でも同様の説明を行った。小中学生の乗車について質問があり、義務教育の観点からスクールバスや通学援助費による対応を検討していると回答した。また、高齢者外出支援助成事業で交付しているタクシー・バス利用券の利用可否について質問があり、互助による輸送では対象にならないと回答した。

【竹内（靖）会長】

事務局の説明について、質問意見はあるか。（なし）

次に中学生のレゴブロックを使ったワークショップ参観の報告に移る。（中郷区さとまる学校理事長の立場で）創造行政研究所からの声かけにより以前から計画

していたこのワークショップを、11月22日（金）に行うことができた。協力に感謝する。参観していた高橋委員と尾崎委員に感想を求める。

【高橋委員】

これまでのワークショップでは紙に書いてテーマを絞っていくものが多かったが、テーマを予め設定してレゴブロックで表現するやり方は新しい手法で良かった。可能であれば、単発ではなく、中学校3年間のうち1度は経験できるように、費用はかかるかもしれないが、継続して開催できると良いと思った。4つのテーマが与えられていたが、まとめるのに苦労しているように感じた。中学生がイメージしやすい柔らかい言葉でのテーマ設定が良かったのではないかと個人的に感じた。この事業は他の上越市内の中学校でも行われているのか気になった。子どもの純粋な発想で作成する姿を見ることができた。

【尾崎委員】

自分自身が思い描いていたのとは、違う画期的な取組であった。漠然としか分からず悩んでいる子もいれば、自由な発想で自分のイメージするものをどんどん作っている子もいた。この取組の継続もそうだが、テーマを易しくして小学生にやってみるのもいいと思った。未来の姿を文章ではなく、形として表現することで興味を持つのだろうと感心した。

【加藤次長】

生徒には、ワークショップ開催日前にテーマ説明や4つのテーマ設定に至った背景を中郷区さとまる学校の竹内理事長から話してもらった。私からは、地域活性化の方向性の決定の基礎となったアンケート結果の概要を、当時小学6年生であった生徒自身の回答をまとめた小学生版と当時の先輩方の回答をまとめた中学生版の2種類を配付し、ワークショップの材料にしてほしいと伝えた。当日は、渡した資料を基に、以前に学んだことや昔のことがらをもう一度考えている様子が見られた。また、新たな将来を導き出すことで、生徒自身が自分の成長を感じ取ってもらう良い機会となった。まさに、温故知新の精神で新しい未来を想像することやアイデアが生まれる楽しさを体験できるワークショップとなり、素晴らしい取組であったと感じている。このワークショップを機に、中郷区を担う気持ちが高まっていたら嬉しいと思う。

【竹内（靖）会長】

（中郷区さとまる学校理事長の立場で）ワークショップをやるまではイメージができなかったが、インターネットで調べると企業や市役所の職員研修でやっている例があった。加藤次長の説明の通り、事前説明があったからこそ、中学生自身もイメージができ、スムーズにできた。もしまたやる機会があるのであれば、同じように取り組みたい。他の地域での実施は、大浦安で、学校ではなく青少年育成協議会が主催となって行った。事前打ち合わせやテーマ設定を事前に行っておらず、中郷区のようにできなかったと聞いた。名立区でも行われる予定。実施に係る

費用は確認するが、地域独自の予算事業を活用するなど継続してやっていけると良いと感じた。

協議に移る。自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について、地域協議会が提案した地域独自の予算事業2件のうち、最初に「(仮称) さとまるバスの運行による検証事業」について、事務局に説明を求める。

【早川班長】

これまでの経過を報告する。(仮称) さとまるバスの運行による検証事業の委託先である中郷区さとまる学校が検証してきたデータを基にルート、ダイヤについて検討してきた。11月29日(金)の中郷区型コミュニティバス検討委員会で、非公開資料記載の運行ルートおよび運行ダイヤについて提案する。非公開資料に基づき説明。

【竹内(靖) 会長】

事務局説明の通り、運行ルートおよび運行ダイヤについては、中郷区型コミュニティバス検討委員会で仕上げていく。現時点で質問、意見はあるか。(なし)

運行事業者となる中郷区まちづくり振興会の理事会での説明の様子や運転手の確保について、中郷区まちづくり振興会理事長である岡田委員に報告を求める。

【岡田委員】

(中郷区まちづくり振興会理事長の立場で) 理事会では、事務局、理事から金銭面が厳しいのではないかと意見が出た。今になって、運行事業を引き受けないとはいけなくなる可能性があり、相談しながら進めていくという話になった。運転手については、常勤の2名、控えの3名程度が決まっている。この他もう2名と相談している。車両の手配も進めているが、納期が遅れており、現段階では未定である。その間は代替えの車で対応する方向で話が進んでいる。

【竹内(靖) 会長】

運行を開始しないと分からないことも多いが、これまでの協議で決めてきた基本的なところはずれていないと思う。どこの部分で赤字が発生しそうなのかを中郷区まちづくり振興会で確認し、行政と相談してほしい。赤字にならないよう運行していただきたい。車両の納期が遅いと費用に影響はあるのか。

【岡田委員】

(中郷区まちづくり振興会理事長の立場で) リースの開始時期によって変わると考えられることから、業者に確認しておかなければならない。

【高橋委員】

初年度から赤字が発生しそうな体制で進んで良いのか心配である。乗合タクシーの運行には市からの補填があったと思うが、互助による輸送もどうにかできないのか。赤字でもやる金銭感覚が理解できない。

【岡田委員】

（中郷区まちづくり振興会理事長の立場で）そもそもなぜ赤字になりそうなのかは、予算要求額を決めた時に基準となった市の運転手の賃金単価と、中郷区まちづくり振興会が設定しているスクールバスなどの運転手の賃金単価が異なっていることからである。市からは実際の運行時間に沿った金額の交付になると聞いており、その点で赤字になるのではないかと話が出ている。

【早川班長】

市は、標準経費として、実際に運行する時間を見込んだ負担費用を中郷区まちづくり振興会に交付する。その経費で切り盛りしていただきたいという話であることから、標準経費を計算する根拠となる運行時間や運行距離が実態に合ったものとなるように検討している。

【高橋委員】

調整段階であることは承知した。ルートなどは中郷区型コミュニティバス検討委員会で検討していくこととなることから、この場では金銭面について触れるが、持ち出し覚悟で運行していくのは中郷区まちづくり振興会が大変になるのではないか。運行に関わる事務処理も負担がかかると思う。事務処理にかかる経費も含めて考えていただきたい。

【竹内（靖）会長】

予算要求額設定の時点でその話はしている。その設定したものに歩み寄ったやり方でやっていくしかないのではないか。運行開始後の想像を広げ過ぎて赤字になる想定をし始めると、そもそもの試算が甘かったという話になる。事務処理にかかる経費も処理時間に職員賃金単価をかけて見込まれている。要するに、今その話をする段階ではない。

【高橋委員】

地域協議会としてフォローするべきではないか。中郷区まちづくり振興会と行政だけで進めてください、とはならないのではないか。情報を共有するためにも報告がちゃんとないといけないのではないか。

【岡田委員】

（中郷区まちづくり振興会理事長の立場で）元々、中郷区まちづくり振興会はスクールバスや園バスの運行と同じように委託事業であると考えていた。しかし、相談を進めていくなかで、中郷区まちづくり振興会が自ら主体となって行っていく事業であることを理解した。そもそもの考え方が異なっていた。令和7年度春

から運行していくのにあたり、行政には、今後も一緒に検討し、見直すところは見直す考えを持っていただきたい。

【竹内（靖）会長】

突発的な事業ではないことから、継続して行けるようみんなで支えていく。地域協議会もこれまでと変わらず関わり、フォローしていく。

【高波所長】

互助による輸送への転換は中郷区で初めて行うことであり、誰もがイメージで動いている。だからこそ、地域協議会提案の地域独自の予算事業「(仮称) さとまるバスの運行による検証事業」でどうしたら利用してもらえる運行になるか検証して、準備を進めているところ。検証が完結すると、効率の良い運行となり、移動手段を必要とする人が必要な時に乗れるものになっていく。利用者負担金が売り上げとなり、工夫と改善で売り上げが上がり黒字にもなる運営になっていくと考える。一定のルールでの運用になるが、現時点で考えられる最大の案を合わせて準備を進めているところである。

【竹内（靖）会長】

柿崎区で運行しているコミュニティバスは、利用率が1年で5割上がったという報道もあった。利用者が増えることが売り上げにつながる。利用者を増やすのに協力する地域協議会委員や中郷区の住民がいるのも大切なこと。

次に、もう1つの地域独自の予算提案事業「子どものい～場所開設事業」について、事務局に説明を求める。

【早川班長】

第3回の開催について報告。11月12日（水）に片貝地域生涯学習センターで開設した。参加人数は13人、9世帯。送迎車は学校から会場までを2往復し、帰りは1便のみで10人、6世帯が利用した。開設時間が午後1時から午後5時30分までと長時間であったが、それぞれ水分補給をしながら遊んでいた。次回は11月28日（木）に中郷総合体育館で開設する。参加は18人程度の予定。参加不参加の確認のため、学校にアプリ配信をお願いして事前周知をした。周知後に参加者にのみ案内文を出した。

【桐山委員】

私の子どもは、見守り者から遊んでもらったようで喜んでいました。

保護者自身が申込み状況を確認できないという点について、改善したのか。

【早川班長】

学校経由のアプリ配信で、次回開設日を案内した。あわせて、参加申し込みが確認できた方宛に案内を送付するため手元に届いたら確認してほしいと周知した。

【桐山委員】

課題解決がされて、各回同程度の参加者が集まると良いと思う。

【陸川（昇）委員】

毎回、ほぼ同じ子どもが参加しており、開設場所での過ごし方に慣れてきて遊び方も上手になってきている。一人で遊んでいる子もいたが、それはそれで楽しそうにしていた。保護者の迎えが来ても帰りたがらない子がいて、それくらい楽しかったのだろうと思う。帰り際に宿題をやっている子がいたことから、自主的とは言いつつも、宿題をするよう声がけだけでもした方が良いのかと感じた。長時間の開設でも子どもたちは疲れを知らずに遊んでいた。

【竹内（靖）会長】

片貝地域生涯学習センターは、外にすぐ出られる状況にある。開設する会場によって特徴が異なり、スタッフが少ないと目が届ききらないという話も聞いている。子どもに一生懸命向き合ってくれる大人が増えることも良いことだと感じる。将来的に子どもが自主的に学校の帰りに寄れる場所を作ることが未来像であり、今はその準備段階である。

【尾崎委員】

陸川（昇）委員の発言にもあったように、帰り際になって宿題をやり始めた子がいて、何をしたいのか子ども自身で決めるのが難しいのかと感じた。体育館での開設は机がなく宿題を広げにくい環境でもあるため、学習コーナーがあっても良いと感じた。私も子どもと一緒に遊んで、疲れたが楽しかった。

【竹内（靖）会長】

長時間の開設日には、子どもに様々な体験を提供できる外部講師を呼び、無償でワークショップがやれると子どもも飽きずに参加できて良さそうである。

【鹿島委員】

パソコンで何か出来ると面白いと思う。

【竹内（靖）会長】

鹿島委員もタイミングが合えば参加していただきたい。

【竹内（昭）委員】

子どもが元気に遊んでいる姿を見ているとこちらも元気をもらえ、良い取組であることを改めて感じる。次の取組につながっていくと良い。

【竹内（靖）会長】

次回開設日にも都合のつく委員は参加してほしい。

次に、視察研修の行先について、事務局に説明を求める。

【津島主事】

資料 No2 に基づき説明。

【竹内（靖）会長】

より多くの委員が参加できるよう夕方からの時間設定となっている。自主的審議事項に関する行先である。本日中に事務局に出欠を報告いただきたい。オレンジファムの運営資金について認定 NPO 法人から助成を受けていると説明があったが、おそらく、それだけではやりきれないところもあるのだろう。一般社団法人として回答できる範囲も限りがあると思うが、事前に質問があれば事務局に連絡していただきたい。説明を聞いて質疑応答の時間に聞いていただくのも良い。事務局から配付のあったオレンジファムやファボプレイスの概要資料を持参するようにしていただきたい。質問や意見はあるか。（なし）できるだけ都合をつけて参加してほしい。

次に、協議会だより編集委員についてに移る。編集委員を、正副会長を除いて2班に分けたので発表する。協力して1月の発行を1班、3月の発行を2班が行ってほしい。1班を陸川（昇）委員、村越委員、桐山委員、尾崎委員、鹿島委員とし、陸川（昇）委員に班長を務めていただきたい。2班を高橋委員、岡田委員、竹内（昭）委員、松岡委員、坂田委員とし、高橋委員に班長を務めていただきたい。1月の発行に向けて、内容を事務局と相談して進めていただきたい。原稿作成依頼のあった委員は素直に引き受け、作成していただきたい。1班の編集委員会を班長と事務局で相談して12月中に設けてほしい。

本日の協議は以上である。

その他に移る。（中郷区さとまる学校理事長の立場で）地域独自の予算事業を活用した共生ステージ「華響」を400人の来場者、100人のスタッフと出演者の大所帯で開催した。はとぴあ中郷のホールの良さを活かしたり、各団体が目的を持って取り組んだ成果を発表し、それがお客さんに伝わったりと、会場が一体となった感覚が次につながるエネルギーだと思った。次年度の開催を望む声もあり、継続して開催していきたい。

【津島主事】

（共生ステージ「華響」に出演した Marching Band BRAVE の一員の立場で）様々な演出と、各団体と交流しながら創り上げる唯一のステージだと感じている。演者自身も楽しんで参加しており、今後も継続して開催していただきたい。

【竹内（靖）会長】

（中郷区さとまる学校理事長の立場で）今回初めて参加した団体に中郷区の子どもの保護者の方がいた。普段の生活で見るとは違う鮮やかな姿であり、見に来ていた友達や家族が感動していた。そのような感動が子どもと保護者の居場所づくり、出番づくりに欠かせないものだと感じた。もっと中郷区の人たちにも見ていただき、興味を持っていただきたい。

【早川班長】

配付物の確認。

【岡田委員】

(中郷区まちづくり振興会理事長の立場で) 新年を祝う会の案内。

【竹内(靖)会長】

次回の地域協議会は、12月23日(月)午後6時から中郷コミュニティプラザで行う。

このあと勉強会を行う。

以上で、本日の地域協議会は終了とする。

9 問合わせ先

中郷区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 0255-74-2411 (内線 165) E-mail : nakago-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。